



つながり つむぐ

☆☆☆☆☆☆☆☆ 「えべつ型コミュニティ・スクール」

令和6年11月15日

第48号

江別市教育委員会

総務課・学校教育課

地域と連携した教育活動を推進するために

～石狩教育局社会教育巡回訪問…第二中学校区 CS～

10月23日（水）に「令和6年度石狩教育局社会教育巡回訪問が第二中学校区（第二小・第二中）で実施されました。この巡回訪問は、「管内教育推進の重点3に係る説明・協議等を通して、地域と学校が一体となった地域学校協働活動を推進し、子どもたちの学びの充実につなげる」ことが目的となっており、今年度から始まった事業です。

初めに、第二中学校区での「えべつ型コミュニティ・スクール」（「えべつ型CS」）導入の経緯や取組についての説明があり、次に、第二小と第二中の地域と連携した教育活動についての紹介がありました。

第二中学校区では、「えべつ型コミュニティ・スクール」が導入された際に、市の小中一貫教育モデル校に指定されていたことから、平成29年の導入当初から2校の学校運営委員会を全て合同で開催してきました。そして、令和5年度の市内全域での小中一貫教育の導入に合わせて、学校運営委員会を1つの組織に改編しました。

CSの合同開催以降は、中学校区の「目指す子ども像」の設定や各種の小中一貫教育の取組と効果について、地域合同清掃の実施について、両校の学校関係者評価について等の熟議が行われ、学校運営の改善・充実に生かしてきました。熟議では、小中一貫教育のカリキュラムによる「系統的な指導」の有効性や、「一貫した指導」の成果、中学校登校等の取組による「中1ギャップの緩和」の効果等、学校運営委員の方々から様々な意見が出されています。

第二小、第二中では、地域と連携した教育活動として、野幌屯田兵村の記念式典への参加や、野幌屯田兵第二中隊本部・野幌屯田兵屋等を活用した学習、学習サポート教員・登校サポーター等を活用した児童生徒支援や放課後学習、市内の大学と連携した「走り方教室」等の取組が行われています。

説明・協議の途中では、第二中の生徒が地域のお母さんや赤ちゃんと交流する「ふれあいルームぽっぽ」事業の参観が行われました。この取組は、生徒が赤ちゃんや保護者と触れ合う中で、生命の大切さや子育ての苦労等について学ぶ貴重な機会となっています。第二中では、年4回の「ふれあいルームぽっぽ」の他に、地域のお母さんや赤ちゃんと交流する「ふれあい授業」も家庭科の学習として実施する等、特色ある地域との連携を進めています。

協議の最後には、石狩教育局の社会教育主事の方から「地域とともにある学校づくり」に向けた取組の改善や熟議の充実についての指導・助言がありました。石狩教育局社会教育指導班では、PTA 学習会や学校運営委員会等への講師派遣を行っています。「地学協働」の充実に向けて研修等を実施したい場合は、教育委員会を通じて訪問要請をしてください。



説明・協議の様子



「系統的な指導」や「一貫した指導」を進めるために ～学校教育指導の相互参加…大麻中学校区、中央中学校区～

いくつかの中中学校区では、石狩教育局による学校教育指導に合わせて、校内研究や学習指導法について、互いに学び合う機会を設けています。今年度は、既に大麻東中学校区や第三中学校区で実施されていますが、10月には、大麻中学校区や中央中学校区でも行われました。実施している中学校区では、特設授業の参観や事後の研究協議に参加して授業改善の方向性等を共有し、小中9年間の「系統的な指導」や「一貫した指導」に生かしています。（※掲載している写真の学校以外でも取り組まれています）



5年生国語科の特設授業を参観(大麻小)



6年生国語科の特設授業を参観(刈穂小)



事後の研究協議に参加(刈穂小)

研究発表会に参加し、研究内容や指導方法を学び合う ～江陽中学校 江別市教育研究会学校課題研究発表会～

10月29日(火)に、令和6年度の江別市教育研究会学校課題研究発表会が江陽中で開催され、中学校区の豊幌小と江別太小の先生方が全員参加して研修を深めました。

公開授業の後の全体会の研究発表では、「江陽スタンダード」による「一貫した指導」についての説明がありました。

また、学習指導案には、「単元の考察」の内容に「(3)系統性」が明示されており、「系統的な指導」が意識されていました。

さらに、研究協議では、小学校の時の子どもたちの実態や指導内容等を踏まえた意見も出され、活発な話し合いが行われました。

この取組も学校教育指導の相互参加と同様に、「系統的な指導」と「一貫した指導」の効果をより高めることにつながり、合わせて研究の成果を小中で共有することができます。

……小中の系統性を意識した指導のために……

※技術・家庭科学習指導案より抜粋

(3) 系統性

家庭科は小学校高学年より生活科のカリキュラムを経て編成される教科である。小学校では、出身校により内容にやや違いはあるが、卵料理や味噌汁をつくるなど、調理器具の扱いから加熱の調理の仕方まで、基本的な学習を済ませている。中学校では、食事の役割と中学生の栄養の特徴、中学生に必要な栄養を満たす食事を理解し、バランスの良い献立をつくった。調理のための食品の選択と購入では、生鮮食品と加工食品の特徴、食品を選択する際の観点を学び、日常生活と関連付けて適切に購入するための知識を学習した。日常食の調理では、小学校での学習を活かしながら、野菜、いもの調理、肉の調理について実習を済ませており、今回は魚の実習を行い、その調理上の性質を理解し、調理技術を身につける。



国語科の特設授業



技術・家庭科の特設授業



外国語科の特設授業



特別支援教育分科会の研究協議